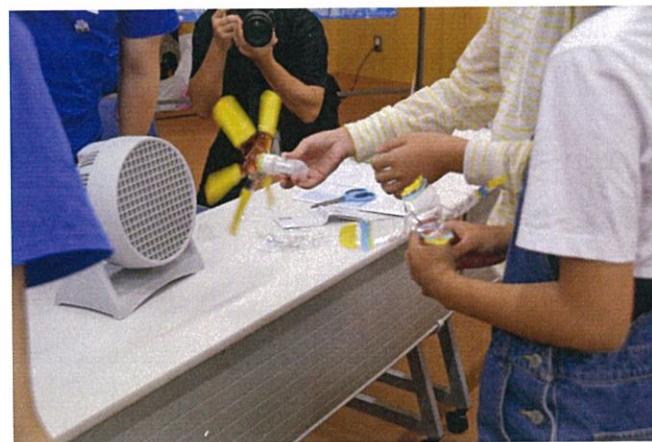
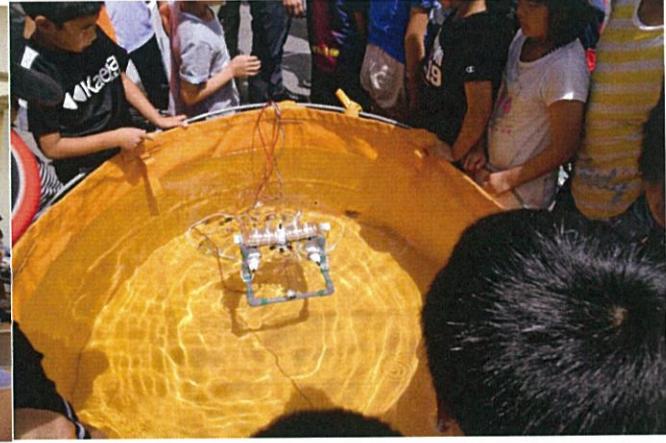


【8月23日、24日 ワークショップ in 五島】



【9月18日 ワークショップ in 伊王島】



# 海洋工ネ人材育成へ

## 本県産学官 普及実行委を発足

本県産学官が「海洋再生可能エネルギー普及啓発事業実行委員会」を発足させた。

本県が力を入れる海洋エネ関連産業への若者の関心を高めるため、体験型講座や先進地派遣などの事業を開催、人材育成を図る。

県と長崎、五島などの5市町、長崎大、長崎総合科学大、NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会などでつくり、7月27日に発足。会長には経塚雄

策・長崎大教授が就いた。

直近では今月6～13日、大学生と高校生計4人を

「長崎海洋大使」として先

進地の英スコットランドへ

派遣、研究施設の見学や関係企業の訪問をしてもら

う。

23、24両日は五島市で

ペットボトルを使った浮体式洋上風力発電機や簡易的な水中探査ロボットを作る

子ども対象の講座を開く。

県内で広く展開できるよう

に指導者育成や指導マニ

ュ

アルづくりも進める。いず

れも海への関心を高める日

本財団の助成事業を活用す

る。

関係者が4日、県庁で記

者会見した。実行委副会長

の松岡和彦・長崎総合科学

大准教授は「子どもの関心

が海そのものから、海洋工

ネ技術へと広がるように継

続的に啓発し、最終的に地元企業で活躍できる人が出てきてほしい。地域の漁協やNPOとも連携していく」と展望を語った。

(田賀農謙龍)

2017.8.8

長崎新聞



ペットボトルを使った浮体式洋上風力発電機や水中探査ロボットについて説明する松岡副会長(右)  
＝県庁

## ペットボトルで浮体式風車模型

### ワークショップに児童30人

再生可能エネルギーを学ぶ「海を活かす技術のワークショップ」が24日、五島市内であり、小学生がペットボトルを使った浮体式洋上風力発電機の模型を作った。NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会が日本財団の助成を受けて開催。市内の小学2～6年生の約30人が参加した。児童たちはペットボトルで風車をかたどり、風で回転するとライトがつく装置を製作。ボトルにパチンコ玉を詰め、じつすれば水槽

でバランスを保って浮かぶのか試行錯誤していた。同市沖では、国内で初めて浮体式洋上風力発電が実用化され、さらに数を増やすワインドファーム化計画が進行中。講師の一人で日本風力エネルギー学会の上田悦紀理事(57)は「世界的に珍しい観光資源としてもどんどんPRしていくいいと思う」と話した。

23日は小中学校の理科教諭を対象にした同様のワークショップもあった。

(石田慶介)

### 再生エネへの理解深める 五島



ペットボトルで作った風車を水槽に浮かべる児童

＝五島市吉久木町、五島市消防本部

県北 矢吹・五島

佐世保近郊

# 海上風力発電を商用化



記者会見でペットボトルを使った浮体式風車の実験について説明する松岡副会長（右）

市桃島沖での実証事業とし

■数百億円投資予定  
五島市崎山沖では現在、浮体式洋上風力発電の風車10基の建設計画が進んでいる。事業主の準大手ゼネコン戸田建設（東京）は総事業費数百億円以上を投資する予定で、発電出力は計20ガ・ワットに上る。売電を見据えて環境影響評価（環境アセスメント）を実施中だ。

10年、県内からは五島市桃島沖、同市久賀島沖、西海市江島・平島沖の3海域が国の実証フィールドに選ばれ、潮流や洋上風力発電の建設が進んだ。しかし、事業主体は県外の企業や団体ばかりで、請けも県外に発注するケースが目立つ

豊かな海洋資源に恵まれた長崎県。国が選定している海洋再生可能エネルギーの実証フィールド8海域のうち、3海域を県内が占めており、実証実験を終え、全国に先駆けて商用化を目指す動きも出ている。海洋エネルギーを県内の新たな産業の柱に育てよう、産官学が連携して人材育成などにも力を入れている。

（松田晋吾）

## 詳解 ながさき

## 産官学連携、人材育成に力

■地場企業の参画促進  
14年、県内からは五島市桃島沖、同市久賀島沖、西海市江島・平島沖の3海域が国の実証フィールドに選ばれ、潮流や洋上風力発電の建設が進んだ。しかし、事業主体は県外の企業や団体ばかりで、請けも県外に発注するケースが目立つ

環境省は2013年、同市桃島沖での実証事業とし

■先進地に「大使」派遣  
海洋エネルギー産業を支える人材育成への取り組みも本格化している。

県や長崎、五島市、長崎の建設が進んだ。しかし、事業主体は県外の企業や団体ばかりで、請けも県外に発注するケースが目立つ

■先進地に「大使」派遣  
海洋エネルギー産業を支える人材育成への取り組みも本格化している。

県や長崎、五島市、長崎の建設が進んだ。しかし、事業主体は県外の企業や団体ばかりで、請けも県外に発注するケースが目立つ

て、2ガ・ワットの浮体式の風車を1基設置。事業終了後、同市が風車を譲り受け、16年に崎山沖に移設した。その後、同社の子会社が運用し、実績を積み上げた。

風車を海上に浮かべてアシカで海底に固定する浮体式は、建設費や維持費が高い、国内で商用化された例はない。ただ、周辺に深い海域が多い日本では浮体式への期待が大きく、同社は将来性を見込んで多額の投資に踏み切ったという。

同市の担当者は「浮体式風車に関心のある企業は多い。五島で成功例をつくり、産業振興につなげたい」と期待を寄せている。

このため、県内の民間企業などでつくるNPO法人・長崎海洋産業クラスターが、地場企業向けに新規参入を促すセミナーを実施。14、15年度に県内各地で計34回開き、延べ1027人が参加した。最近では、積極的に技術開発に取り組む企業も増えているという。

同協議会の高比良実事務局長は「海洋エネルギーの開発が活発になつても、地場企業が参入しなければ地元に貢献できない。地場企業が技術力を高めることで、県内での発電所の建設も活発化するといつ好循環が生まれる」と強調する。

■先進地に「大使」派遣  
した実行委の松岡和彦長は、「行政と大学がだけ協力して人材を育てているのは長崎だけですか。小学校から大学地元で海洋エネルギーを担う人材を育てたい意欲を燃やしている。

て、2ガ・ワットの浮体式の風車を1基設置。事業終了後、同市が風車を譲り受け、16年に崎山沖に移設した。その後、同社の子会社が運用し、実績を積み上げた。

風車を海上に浮かべてアシカで海底に固定する浮体式は、建設費や維持費が高い、国内で商用化された例はない。ただ、周辺に深い海域が多い日本では浮体式への期待が大きく、同社は将来性を見込んで多額の投資に踏み切ったという。

このため、県内の民間企業などでつくるNPO法人・長崎海洋産業クラスターが、地場企業向けに新規参入を促すセミナーを実施。14、15年度に県内各地で計34回開き、延べ1027人が参加した。最近では、積極的に技術開発に取り組む企業も増えているという。

同協議会の高比良実事務局長は「海洋エネルギーの開発が活発になつても、地場企業が参入しなければ地元に貢献できない。地場企業が技術力を高めることで、県内での発電所の建設も活発化するといつ好循環が生まれる」と強調する。

■先進地に「大使」派遣  
した実行委の松岡和彦長は、「行政と大学がだけ協力して人材を育てているのは長崎だけですか。小学校から大学地元で海洋エネルギーを担う人材を育てたい意欲を燃やしている。

## 浮体式10基、五島沖に建設計画

このため、県内の民間企業などでつくるNPO法人・長崎海洋産業クラスターが、地場企業向けに新規参入を促すセミナーを実施。14、15年度に県内各地で計34回開き、延べ1027人が参加した。最近では、積極的に技術開発に取り組む企業も増えているという。

同協議会の高比良実事務局長は「海洋エネルギーの開発が活発になつても、地場企業が参入しなければ地元に貢献できない。地場企業が技術力を高めることで、県内での発電所の建設も活発化するといつ好循環が生まれる」と強調する。

このため、県内の民間企業などでつくるNPO法人・長崎海洋産業クラスターが、地場企業向けに新規参入を促すセミナーを実施。14、15年度に県内各地で計34回開き、延べ1027人が参加した。最近では、積極的に技術開発に取り組む企業も増えているという。

このため、県内の民間企業などでつくるNPO法人・長崎海洋産業クラスターが、地場企業向けに新規参入を促すセミナーを実施。14、15年度に県内各地で計34回開き、延べ1027人が参加した。最近では、積極的に技術開発に取り組む企業も増えているという。

入め

多くの人に西海市を訪れてもらおう  
と、市内のハンドメイド作家の女性7  
人でつくるプロジェクトグループが23  
日、西海市西彼町伊ノ浦郷の「西海  
丘」で、手作り雑貨の展示販売を中心  
とするイベント「さいかいプレイスマ



さいかいプレイスマーチェットのチラシ

から、仕事や家事、育児  
などの合間を縫って月1  
回集まり、イベントの企  
画立案など進めてきた。  
山みほ代表は「できる  
ことを自分たちでやりな  
がら、周りを巻き込んで

市民や留学生ら250人



松岡准教授（右から二人目）  
アドバイスを受けながら水中探  
査ロボットを組み立てる児童  
＝長崎市、やすらぎ伊王島



水中探査ロボットを組み立て、海の中を観察する教室が18日、長崎市伊王島町であり、地元の小学生が海洋研究の技術や面白さを学んだ。

日本財団が展開する「海と日本プロジェクト」の一環で、NPO長崎海洋産業クラスター形成推進協議会（坂井俊之理事長）が主催。長崎総合科学大の松岡和彦准教授（46）＝船舶工学＝と学生6人が講師を務めた。

## 伊王島小児童 海洋研究の技術学ぶ

教室には市立伊王島小児童8人が参加。児童は塙ビパイプやペケットボトルなど身近な部品でロボットの構組みを作り、スクリューや防水カメラなどを取り付けてロボットを完成させた。ロボットは近くの漁港岸壁から海へ投げ入れ、カメラで魚などを観察した。

参加した同小5年の石飛晴渚君（11）は「水の中で動くロボットを簡単に作ることができて驚いた。これから海のことも勉強したい」と笑顔で話した。

（田下寛明）

## 高齢者の安全安心寸劇で 浦上署、住民ら400人参加



特殊詐欺の手口や対策について熱演した  
浦上署員による寸劇  
＝長崎市、チトセピアホール

防災の意識を高めた。  
災害や110番のかけ方  
などの講話後、同署の若手  
警察官でつくる劇団「ピース」が、特殊詐欺をテーマ  
にした寸劇を披露し、手口

00万円が必要だった  
その電話をかがいる女性を  
だましとうるーとに扮し  
ループを紹介  
見破り、「だまされた」と罵声を飛ばす  
作戦」を行なった  
「お金を懲らし  
「お金の話は

販売センターへの  
ご用は下記電話に  
<長崎市>  
田中・青木(895-5810)

谷(848-6273)  
柳(848-6338)  
吉(848-6338)  
平(847-3872)  
道の尾・滑石(856-2482)  
滑石西部(855-6711)  
浦上・平和(846-7311)

本社報道部 (095-846-9240)  
西彼中央支局 (095-882-7600)

長崎近郊

県南 県央